

事務事業名		LD教室運営事業		所属部	子ども政策局	所属課	子ども家庭支援課
総合計画体系	政策名	(IV)ふるさとを学び育つまち<教育・文化>		所属G	子ども家庭支援G	課長名	戸谷 久美子
	施策名	(27)学校教育の充実		担当者名	山根 史朗	電話番号	0854-40-1067 (内線) 2262
	目的:対象	小学校の児童・中学校の生徒	意図	基礎基本(知・徳・体)の発達を促し、生き抜く力を身につける。			
	基本事業名	(083)困難さを抱える児童生徒への支援の充実		予算科目	会計 款 大事業 大事業名 0 1 5 0 0 3 項 目 中事業 中事業名 0 5 1 0 3 4	教育推進事業 LD教室運営事業	
目的:対象	児童・生徒	意図	個に応じた教育・支援を受ける。				

1 現状把握 [DO]

(1) 事業概要

① 事業期間	
<input type="checkbox"/> 単年度のみ	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (29年度~)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~年度)	
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
雲南市内の小中学校に在籍する児童生徒のうち、読み書きに困難さを持つ児童生徒を対象に集中力を高めるトレーニングや認知特性を活かした個別学習等を実施することにより健やかな成長に寄与する	

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動					
	29年度実績(29年度に行った主な活動) 指導員2名配置 利用児童生徒 中学生:8名、小学生7名 事務室の環境整備	30年度計画(30年度に計画する主な活動) 前年度と同様。 利用児童生徒 中学生4名 小学生11名				
② 活動指標		単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
ア	指導を実施した児童生徒数	人			15	15
イ	指導者数	人			2	2
ウ						
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)		③ 対象指標		単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	児童生徒 LDの診断がある。 デコーディング指導を受け、家庭で取り組んでいる。		ア	児童生徒数	人			2,803	2,750
			イ	指導を必要としている児童生徒数	人			15	15
			ウ						
② 意図(対象がどのような状態になるのか)		④ 成果指標		単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
読み書きに困難さを持つ児童生徒の困り感を和らげる		ア	指導を必要としている児童生徒に占める指導を配置した児童生徒の割合	%			100.0	100.0	
		イ							
		ウ							

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (29年度決算)		② コストの推移		単位	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(計画)
需用費	277千円	事業費	国庫支出金	千円				
役務費	44千円		県支出金	千円			2,527	3,272
委託料	4,874千円		地方債	千円				
工事請負費	2,442千円		その他	千円				3,272
備品購入費	164千円		一般財源	千円			5,274	407
			事業費計(A)	千円			7,801	6,951
		人件費	正規職員従事人数	人			1	
			延べ業務時間	時間			200	
			人件費計(B)	千円			815	
		トータルコスト(A)+(B)		千円			8,616	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
近年、通常の学級には学習に困難さがある児童生徒が多く在籍している。	H29年6月から2名の指導員を配置し、読み書きに困難さを持つ児童生徒を対象に集中力を高めるトレーニングや認知特性を活かした個別学習等を実施している	保護者、学校からもLD教室に通わせたいという声がある。

事務事業名	LD教室運営事業	所属部	子ども政策局	所属課	子ども家庭支援課
-------	----------	-----	--------	-----	----------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒	
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？		
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒	
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？		
C 効率性	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	特別支援の教育法を学んでいる経験の豊富なスタッフによる指導を行っている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない		
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有		
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	他に制度・事業がない	
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	指導を要する児童生徒の人数により必要最小限の予算で行っている	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
B 有効性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	必要最小限の予算で、委託をしながら行っている	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
C 効率性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	直接的な受益者は、指導を受ける児童生徒であるが、その支援によって他の子どもたちも安定した学校生活を送れることになる。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由) 支援時間の延長を求める声が多い
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
		B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
		C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
		D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																			
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持	●	×	低下	×	×
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
成果	向上																				
	維持	●	×																		
	低下	×	×																		
読み書きに困難さを持つ児童生徒に対し、個々に応じた指導が必要である。		<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																			